

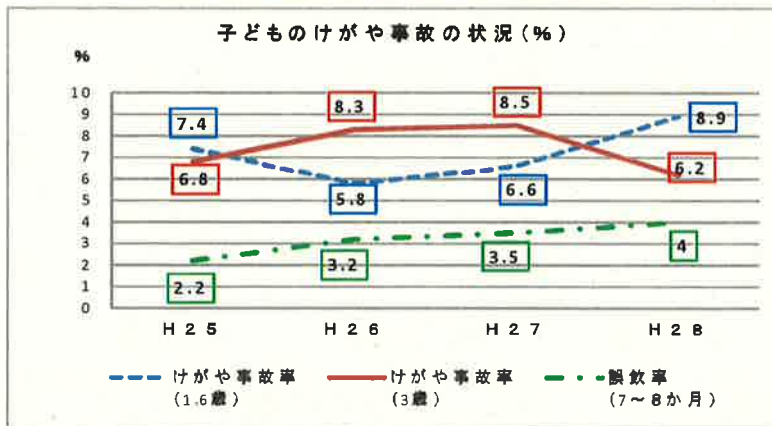
保健センターだより (令和元年・春号)



子どもの事故予防について

1～9歳児の死亡原因の上位を占めるのが「不慮の事故」(思いがけない事故)です。また、0～4歳児の不慮の事故による死亡は、家庭内でも起こっています。

天草市の現状は？(第3期健康増進計画現状分析より)



天草市の子どものけがや事故率等は横ばい状態です。

・1歳6か月児でのけがや事故率は増加傾向にあるものの、3歳児では減少しています。

・7～8か月の誤飲率ここ数年徐々に増加傾向にあります。

資料：乳幼児健診実績

年齢別にみた、起きやすい事故と予防のポイント



1歳までに起きやすい事故		予防のポイント
転落・転倒	●寝返りによる転落	ベビーベッド柵の使用
誤飲・窒息	●布団などによる窒息	うつぶせ寝をさせない／そばにタオルやぬいぐるみなど置かない／掛け布団で口をふさがない
	●トイレトペーパーの芯を通るような小物を口に入れ飲み込む	危険なものは子どもの目に触れない・手の届かない場所に片づける／★誤飲の第1位はたばこ！
1～4歳に起こりやすい事故		予防のポイント
転落・転倒	●テレビ台などに上り落ちる ●ベランダや階段などからの転落	踏み台になるような箱、家具などベランダ窓際に置かない
やけど	●炊飯器や加湿器の蒸気にさわる ●アイロン、ストーブにさわる	ストーブ、アイロン、ポット、鍋などやけどの原因となるものに子どもが触れないようにする／ストーブには安全柵をつける／テーブルクロス使用時は机の上には熱いものは置かない
	●ポット、鍋をひっくり返す(テーブルクロスを引っ張ることでひっくり返すこともある)	
溺れる	●浴槽に落ちる、水遊び	入浴後はわずかなお湯でも残し湯をしない／お風呂場に外鍵をつける／水遊び時のライフジャケットの着用・目を離さない
誤飲・窒息	●医薬品、化粧品、洗剤、コイン、豆など誤って飲む	寝具の注意／危険なものは子どもの手が届かないところに片づける／ピーナツや炒った大豆など乾いた豆類は食べさせない
交通事故	●道路への飛び出し	手をつないで歩く／三輪車や自転車に乗せるときはヘルメット着用／車から降りす時目を離さない



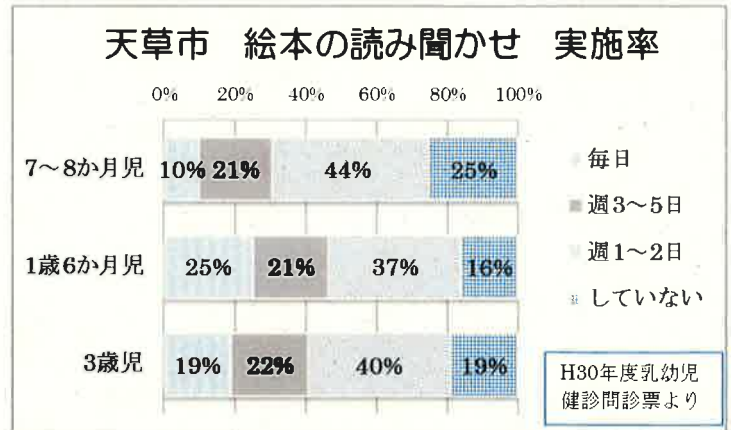
子どもの事故の内容は、年齢によって特徴があります。その多くは親の注意や環境づくりによって防ぐことができます。子どもの周囲の環境を再点検してみましょう。

楽しもう♡絵本の読み聞かせ

天草市の現状

天草市では親子のふれあいの実態を把握するため、乳幼児健診時に絵本の読み聞かせの状況をお尋ねしています。

週1～2日の実施が最も多く、していない家庭も2割程度あります（右のグラフ参照）。



絵本の読み聞かせの効果

絵本の読み聞かせには、たくさんの効果があります。

- 想像力を育む 目で見えないものをイメージして、自由な発想が広がります
- 言葉を育む 言葉のシャワーを浴びることで言葉を覚え、会話の幅が広がっていきます
- 社会性を育む 主人公を通して、生活習慣やお友達との接し方、思いやりなどを学びます
- 親子の絆を育む

親の膝に座って本を読んでもらうことは、子どもにとってかけがえのない時間であり、親からのなによりの愛情表現です。親からの愛情をしっかりと感じることは、**子どもの精神的安定**につながります。

実は、子どものためだけではなく、**読み手側（親）の心を穏やかにする効果**もあるんですよ！

一番の目的は「楽しむこと」！
親子の大切なひと時を楽しみましょう♡



「ブックスタート」をご存知ですか？

ブックスタートは、赤ちゃんとお絵本を開く楽しい「体験」と「絵本」を1冊プレゼントする活動で、天草市では3～4か月児健診において、すべての赤ちゃんを対象に実施しています。3～4か月の赤ちゃんも目で見て、耳で聞いて絵本を楽しめるのです！赤ちゃんとお保護者が絵本を介して、**心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる**ためにブックスタートを行っています。

健診会場で絵本を読んでもらうのはボランティアの方々に、皆さんの協力により活動の充実や継続につながっています。



読み聞かせのコツ

★読み聞かせの方法★

子どもを膝に抱っこして、ふれあいながら絵本を読みましょう。

子どもにぬくもりと安心感が伝わり、読み聞かせの効果が高まります。

★絵本選びのコツ★

絵本選びに悩んだら、図書館の利用がおすすめです！月齢・年齢にあった絵本が見つかりますよ。



今からでも遅くはありません！
1日1冊、5分から始めてみませんか？